

ご自由にお持ちください。

自分なりに



きつかけを求める、すべての人に。



「少子・高齢化」

を考える7つのヒント

三井住友フィナンシャルグループ



私たちが取り組む課題について、
ホームページで詳しくご紹介しています。

<http://www.smfg.co.jp>



「SMFG」で検索

▶ トップページ

▶ 企業の社会的責任(CSR)

少子・高齢化を、 笑って生きる ヒントありますか？

少子・高齢化。それは、テレビや新聞が語ることではありません。

みんなに子ども時代があり、みんながいつか老いるように、

それは、人が生きることと密接に結びついているもの。

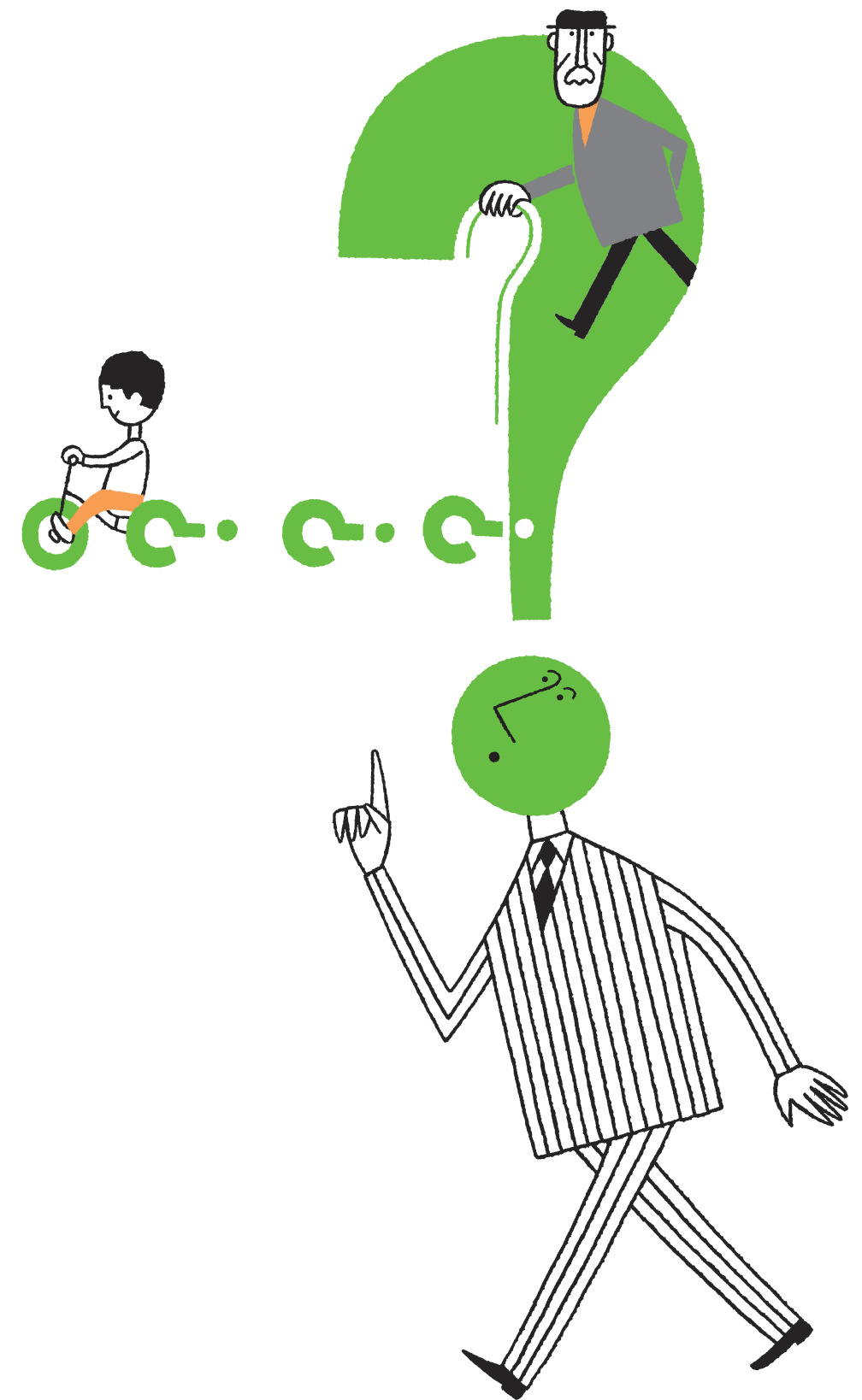
いまの時代に暮らすすべての人と、一緒に考えたい問題です。

でも私たちは、むずかしい社会現象を論じるつもりはありません。

ただ、普通に毎日を暮らしている人間として、知っておきたいことはある。

不安な顔で将来を語るより、できることを探していくほうが楽しい。

まずは、自分から。それはきっと、一緒に生きている人を想うことなんです。



01

Interview
インタビュー

生島ヒロシ

高齢化はみんなの問題。それを体現するような人がいました。生島ヒロシさん。誰にでも訪れることだからこそ、捉え方が大切。実体験から語る言葉には、独特の温かみがありました。

老いへのリテラシーは、
転ばぬ先の杖。

― 生島さんは、義理のお母様のお世話が必要になったこと

をきっかけに、介護や医療の問題を考えるようになったと伺っています。

そうですね。介護は思いがけずにやってくるんです。

たとえば認知症ですけど、「今日朝ご飯何食べたかな」というのは認知症じゃない。でも、食べたこと自体がすっぱり抜け落ちてしまうのは、認知症

うのはやっぱり段差が多いんですよね。つまり転倒してしまっ、それがきっかけで寝たきりになってしまう。

親が年を取ってきたら、そういうことに対するリテラシーを上げておく必要があると思います。

良い最期は、
“一日一生”から。

― 自分自身が、時とともに老いていくことにも心構えがありそうですね。

僕が尊敬する、がんの治療に取り組まれている先生に学んだことがあります。それは、“一日一生”。今日が最後の日と思って一日を一生懸命に生きるということ。先生は、一日一生懸命働いて、夕方にときめきを感じると。そのときめきは何か。1年365日、休まず欠かさず晩酌をする(笑)

人生、多毛作。
切り拓いていく強さを。

― “一日一生”を実践していくために、必要なことは何でしょうか。

まずは、元気でいるってことがすごく重要ではないでしょうか。これだけの超高齢社会ですから、75歳ぐらいまで働く気持ちがあつていいと思うんです。人生多毛作で、二毛作、三毛作と仕事していると、またいろんな関係ができてくるし、生き生きすると思うんですよね。個人個人があまり

で、それがやっぱりやめられない。「普通休肝日を設けるじゃないですか」って言ったら、「そんなもの設けちゃいけません。もうこの酒をやめたら、私は生きてる感じがない」とか言っ、非常に、ユーモアを交えながらすばらしいんですよ。

国とか組織に依存しないで、自分の人生は自分で切り拓いていくぐらいの、もっと明るく、ポジティブな強い気持ちでやってってもいいかな、とそれが今、日本人1人1人に求められるんじゃないかと考えます。

― 自分が老いを迎える方も老いを介護する方も、両方がそういうスタンスで臨まれるのが一番いいんでしょうね。
大変なときこそ、笑うっていうこと。笑いが、人生の力になると思うんです。

生島ヒロシ
いくしまひろし
1950年宮城県生まれ。フリーアナウンサー。ファイナンシャルプランナーの資格を持ち、東北福祉大学で教鞭を執るなど、多方面で活躍中。

ヒント01

老いと生きること、
もっと話したい。

介護にしても、自身の老いにしても、ユーモアも交えながら話したい。共有できる仲間は、心強いものです。

介護も、自分自身の老いに対しても、
ユーモアを持つことが大切だと思うんですよ。

02



70代の夫婦が「老後のために」 資産運用をすることは珍しくありません。

SMBCフレンド証券「投資コンシェルジュ」として

「い」 よいよ自分の好きなことができる、人生これからだ。それが60〜70代ではないでしょうか」そう語るのは、SMBCフレンド証券の杉田さん。近頃の60〜70代は非常にアクティブで、海外旅行に行く人も多いそうです。健康寿命が延びるなか、70代の夫婦から「老後に備えて」資産運用をしたいという依頼もまだ老後と思わず、さらに将来のために積極的に情報収集する、従来のイメージとは異なるシニア像が浮かび上がります。

「資産運用の目的とは、人生を最後まで悠々自適に過ごすこと」その思いを実現したいという姿勢は「悠々投資」という同社独自のブランド名称にも表れています。「パソコンを使う方は増えていますが、一番信頼できる

ヒント02

“おもてなし”が キーワードです。

ネット社会だからこそ、人とのつながりを大切にしたい。おもてなしのサービスが、豊かな人生の助けになるかもしれません。

のは「人ではないでしょうか」「人とのつながりにこだわって、悠々と投資していただく環境をご用意しています」同社の白水さんはこう語ります。SMBCフレンド証券が掲げているのは、親身なサービス対応を表す「全社、投資コンシェルジュ宣言。」コンシェルジュのようにおもてなしの心をもったサービスはますます広がりを見せそうです。

03



高齢者疑似体験

「いい気づかい」を形にするために、 理論や体験の裏づけも大切です。

三井住友銀行 高齢者のお客さまのサポートについて

三 井住友銀行では、サービスケアアテンダントという社内資格を設けています。本店で接客にあたる諸原誠司さん、吉田陽子さんに、実際にサポートをするときの想いについて伺いました。

諸原 「ハンディキャップの疑似体験で、重いものを体につけて歩いたりします。自然と目線が下がるとか、実際に体験して気づくことが、実践につながっています」

吉田 「ちょうど父が81歳で末期がんになったとき、急に私に『看護師さん断っているから』と。そうはいっても父をなだめていたんですが、講習でテキストを読んで、目からウロコでした。父によく話を聞くと、看護師の方々が子どもを扱うような言葉づかいだったと。それが気に入らな

ヒント03

学ぶからこそ、 気づけることがある。

身内だからよく知っている、とは限らない。心の問題、何を不自由に感じるか。勉強することが、相手の想いに応える第一歩かもしれません。

かったんですね。学ばなければ、気づけなかったかもしれません」

諸原 「年齢とか障がいがあるとか、そういうものも関係なく公平に、すべて1対1の関係の中でお客さまに合ったサービスを。それが、私たちの一番の目標なんです」

サービスも、身内の介護も、秘訣は「相手を見るために学ぶ」というところにあるのかもしれない。

05

親同士が支え合って助け合う。 そこに両立のカギがある。

日本総研 池本さん 村上さん

育児休業取得の大きな収穫は、 子育ての大変さが理解できたこと。

日本総研 豊原さん

04

子どもを育てながら、どう働くかをみんなで考える。
少子化問題を解決する糸口はそこにあるかもしれません。
日本総研の「パパママランチ」。子育て支援に、新しい可能性が見えてきました。

小さなつながりが
パパ・ママに広がって
大きな出会いになる。

豊原 そもそも「パパママランチ」は、ママ同士の小さなつながりをきっかけに始まったのですよね？

池本 そうそう、そしてだんだんとパパにも浸透し、今の「パパママランチ」というスタイルになりました。

村上 最近は参加者も増えてきました。なので、年齢の近い子どもを持つパパママ同士、同じ地域に住むパパママ同士が交流できるように座席の配置を考えるなど、より効果的な交流

り添ってあげられるようになったと思います。そんな経験談もパパママランチで共有しています。

池本 ノルウェーでは父親の育児休業取得率が90%であり、もはや「育児休業を取らない方がパパとして恥ずかしい」という雰囲気があるそうですよ。そういった新しい雰囲気

がこのパパママランチから生まれてくるというですね。

村上 パパママランチを通じて、頑張っているお互いの存在が見えるようになること。そして情報を交換し、支えあうことが出来ること。これが子どもを育てながら働き続ける上でなにより励みになりますよね。

を目指し工夫をしています。

豊原 私は上の子どもが11カ月のときに参加したのですが、先輩パパ達からしつけや将来の教育についてアドバイスをもらえたことが心強かったです。

池本 会社ってどうしても自分の業務範囲内だけの付き合いになりがちですが、仕事を越えた人脈が築けるというの

が大きいですね。

村上 私は「子どもを預けて働いているのだから、しっかり仕事をしなくちゃ」と前向きな姿勢のママに沢山出会え、良い影響を受けています。

少子化は、
制度の問題だけでなく
意識の問題でもある。

豊原 実は私は第2子が生ま

れる際に1カ月程育児休業を取りました。その期間、子どもたちとじっくり向き合えたことはもちろん、子育ては大変だと理解できたことが大きな収穫でした。育児休業を経て、ママの気持ちに寄



右 豊原雄太
育児休業を1カ月程取得したお父さん
中 池本美香
子育て・保育政策の専門家でもあるお母さん
左 村上佳子
自身もお母さんでパパママランチ会主催者の一人

ヒント05

「見える化」で、
子育ては変わる。

職場や地域の中で、子育てや介護をしている人の存在を知ることのできる仕組みを。独りにしないことが、支え合いの一步です。

ヒント04

パパの悩みは、
パパに聞こう。

仕事と子育ての両立は、男性の問題でもあります。職場での「パパ友」づくりが、その助けになるかもしれません。

共働きの時代、
仕事と育児を両立するため
注目される職場の“場”づくり。
三井住友銀行の取り組み

企業で働く人たちは、多様なバックグラウンドを持っています。三井住友銀行は、従業員が柔軟な働き方をするための方策として、仕事と育児の両立支援のための制度・インフラを整え、利用者も年々増加しています。その施策のひとつが、定期的開催している研修。

スムーズな職場復帰、復帰後の働き方などについて一人ひとりが長期的視点に立って自ら考えるため、プレママ研修、育休職場復帰サポート講座、ワーキングマザーミーティングなど、子育てのステージに合わせた場を設けています。



子育て中のお母さん達が語り合う、ワーキングマザーミーティング。



子どもたちに職場で働く姿を。『SMBC参観』は従業員にも好評です。

06

子育て支援に必要なのは、
地域に根ざした
本当の信頼。

三井住友銀行
子育て支援NPOピッコロ
へのプロボノ活動



東京都の清瀬市で活動する子育て支援のためのNPOピッコロ。三井住友銀行は、職務上のスキルを活かしたプロボノ活動を行っています。ピッコロ支援活動の中心的な役割を果たしたのは同行の信託部長、藤井さん。NPOの活動について話を聞く中で、

寄付をいかに募るかが悩みの種だと分かり、提案をすることに。そのポイントについて語ってくれました。

① 近くの人を、もっと近く。

寄付のお願いは、このNPOのことをよく知っている人たちから始める、すなわち、近くにいる人たちをより近づける戦略が有効ではないかと話しました。寄付をして頂くお気持ちは、このNPOなら寄付を役立ててくれるはずだという信頼感が土台になるので

はないかと思われたからです。

② 変化することが信頼になる。

「本当の信頼感」を育てるのは、近くにいて悩みを共感してくれるとか、ユーザーの思いに対応して新しいことを始めてくれたとか。そういう、ユーザーの声に耳を傾けて、変化に対して前向きに取り組む姿こそが大切なのかもしれません。

③ 循環を活かす仕組みづくりも。

このNPOは創業15年ですから、昔、預かった子どもが大人となって活動に協力してくれることも考えられます。その循環をつなげていくために、そのような人たちの参加や支援を求める仕組みづくりも効果的ではないかというお話しもしました。

ヒント06

助けた人が、
助けてくれる人に。

子育て支援NPOの本質は、
人と人との助け合い。それが、
少子・高齢化問題のキーポイントになっています。

07

高齢化問題は、
どう生きたいかという
問題でした。

三井住友銀行
「遊び」を通じた
高齢者ボランティア



高齢者のケアは、介護や医療だけではなくありません。三井住友銀行の従業員などが企画した社会貢献活動を行う社内ボランティア組織「YU」では、高齢者施設を訪れ、ミニコンサートを実施するなど、とも

に時間を過ごす活動を行っています。その関わりの中に、高齢化社会のコミュニティのあり方のヒントを見つけました。

① 世代を越えた「伝承」の楽しさ。

ボランティアが高齢者の方々から青春時代の思い出や戦争体験などの話を聞くと、話をする側にも聞く側にも、表情が輝く瞬間があります。現代の子どもたちは親世代からの文化伝承が少なくなっているという面も、祖父母世代が持つ知恵を孫世代が学ぶなど、世代を越

えた文化再生の可能性が見えてきます。

② 「一芸」を披露できる場所として。

音楽や、演劇、大道芸など、一芸を持っている人にとって、老人ホームなどでイベントを開催することは普段披露するのとは違う層に触れること。より分かりやすく訴えかける芸、コミュニケーションを取りながら進める方法など、自分の実力や経験を養うことにつながります。

③ 家庭の介護も「オープン化」を。

外部ボランティアが訪問することは、施設内の高齢者の方や、介護にあたる方々にとつての張り合いにも。家庭での介護で考えても、家族外の社会とのつながり、コミュニティを意識的に利用することは重要。都市部でも、地域コミュニティを活用する住環境などが見直されています。

ヒント07

遊びの中に、
大切なものがある。

遊びは、社会と関わる方法のひとつ。
高齢化時代、人々が生き生きと暮らす
コミュニティの第一歩は、そこにあります。

